

魅力ある学校づくり訪問日記⑧ (平成21年11月19日・木曜日)

【PTA教育講演会】

心に響き、心に残るすばらしい講話でした。市村自然塾長などの、これまでのご経験の中から、子ども達の姿をもとにした、とてもわかりやすいお話をお聞きすることができ、とても感動しました。十分ではないと思いますが、特に印象に残った言葉を私なりに整理してみたいと思います。

- 現代は体験が脆弱化している。子ども時代にこそ、十分な自然体験、農業体験を勧めたい。親も子も、体験が絶対的に不足している。お年寄りや自然に学び、体験を大事にしてほしい。
- 子育ては親の責任・・・「たかが箸のにぎり、されど箸のにぎり」・・・一事が万事。箸や鉛筆の正しいにぎり→正しい筆圧、正しい文字書き、学習や生活への自信につながっている。
- 「大人も子どもも人は群れて成長する。日常的に群れの復活を！！」
- 「きつい・きたない・きけん」3つの「き」を避けて通ることの危さ。無意識な親の意識が子どもの意識につながっている。
- 勇気と感動のない体験は体験ではない。命の大切さ、「いただきます」の意味を実感する本物の体験活動がある(市村自然塾)
- 受粉や受精等、自然の節理から、両親の存在があって自分の命がある事に気付くことができる。
- ゾウも蟻も体の大きさは随分違うが、命の大きさはかわらない。命の尊さは同じ。
- 「私のお母さんは、やさしい。一回も怒られたことはない。怒るかわりに涙を流しはる。涙を流しはるお母さんが、私は一番こわい。」(「育心」という本の一節より)
- 「農業ののの字も知らない親達が、買う事しか知らない子を育てている。」(「有明抄」の一節より)
- 親がまず地域に飛び出し、親に自己中心的なところがあれば、まずそれをとっばらしてほしい。
- 「屋根のない学校をつくってほしい」・・・学校と地域、家庭が一体となったものへの期待。
- 「育てたように子は育つ。育てたようにしか子は育たない。」

最後に、永池校長先生より、「今日の話をしっかり受け止めて、子どもの学力・生活力を高め、支えられるように、学校と地域、家庭が一体となって一歩ずつ歩んでいきたい。」とお話がありました。これからの「魅力ある学校づくり」のさらなる推進に向けて、学校、保護者にとって、「共創」を図る貴重な学びの場となった講演会でした。

魅力ある学校づくり
のために・・・
キーマンは「親」です。

